

船舶事故等調査報告書

平成24年4月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011門第177号	
事故等種類	運航不能（燃料パイプ破損）	
発生日時	平成23年12月4日（日） 12時42分ごろ	
発生場所	福岡県宗像市筑前大島北方沖 筑前大島灯台から真方位061° 1,900m付近 （概位 北緯33° 55.1′ 東経130° 25.6′）	
事故等調査の経過	平成23年12月8日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	プレジャーボート HAYABUSA、5トン未満	
船舶番号、船舶所有者等	290-39751福岡、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	なし	
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人3人を乗せ、平成23年12月4日08時30分ごろ福岡県福津市福間漁港を出港し、筑前大島の周囲で釣り場を移動中、12時42分ごろ船外機が停止した。</p> <p>本船は、船長が船外機を点検したところ、燃料タンクからのゴムホースを‘船外機の燃料こし器の口金部に接続するプラスチック製カプラ’（以下「燃料接続カプラ」という。）に割損を生じており、割損箇所から燃料のガソリンが漏えいし、燃料タンクが空になっていたため、海上保安庁に救助を要請した。</p> <p>本船は、救助艇及び巡視艇により、宗像市大島港にえい航され、その後、修理業者により修理された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 西、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1.5m</p>	
その他の事項	<p>船長は、平成4年1月に進水した本船を平成23年11月に中古で購入した際、燃料タンクは満杯（80ℓ）ではなかったが、半分以上燃料が入っていたことを確認しており、本インシデント発生までに1回約2～3時間の航走を3回行っていた。</p> <p>船長は、出港前に燃料タンクの燃料残量（約40～60ℓ）、船外機の燃料系統及び電気系統に異常のないことを確認していたが、燃料接続カプラのひび割れに気付いていなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	本船は、筑前大島周辺を航行中、船外機の燃料接続カプラに割損を生じたことから、割損箇所からの燃料の漏えいが続き、燃料タンクの燃料がなくなって船外機の運転ができなくなり、運航不能

	<p>になったものと考えられる。</p> <p>本船は、出港時には燃料タンクに燃料があったことから、燃料接続カプラは、材質が経年劣化してひび割れ等を生じていたところ、船外機運転中の機関振動等が加わって割損に至った可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、筑前大島周辺を航行中、船外機の燃料接続カプラに割損を生じたため、割損箇所からの燃料の漏えいが続き、燃料タンクの燃料がなくなり、船外機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中古船を購入し、それ以前の主機の使用状況及び整備状況が不明な場合は、各部の入念な点検を行い、経年劣化しやすい部品については早目に交換すること。